

| | | | | | | | |
|--|--|-----|--------|---------|------------|------------|---------------|
| 授業科目 (ナンバリング) | 臨床栄養学 (ND313) | | | 担当教員 | 出口 雄也 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 1.5 単位 | 開講年次・時期 | 3 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブラーニングの類型 |
| 健康維持に必要な栄養素の代謝に関する基本的知識を修得しておくことは、薬剤師にとって必須のことである。まず、各栄養素のそれぞれの役割、体内での働き、食事摂取基準、それらの過不足と生活習慣病との関連について学ぶとともに、自分自身の食生活の見直しにつなげたい。次いで、栄養学の臨床への応用として、高度化・複雑化する医療ニーズに対応するために必要な疾病治療における栄養管理の重要性を学ぶことを目的とする。【本学薬学部独自のアドバンスト科目】 | | | | | | | ①②③⑩⑫ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の役割、体内での働き、それらの過不足と生活習慣病との関連について説明できる。 ・疾病者の臨床検査値から、必要な栄養管理方法を提示することができる。 | | | | 定期試験 課題 | 70% 15% | |
| 情報収集、分析力 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身および日本人の食生活について、分析できる。 | | | | レポート | 15% | |
| コミュニケーション力 | | | | | | | |
| 協働・課題解決力 | | | | | | | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは2回実施し15%、課題は毎授業で実施し15%、定期試験の成績を70%とし、総合的に評価する。 ・レポートは指定された期日に提出されたかどうか評価の対象とする。なお、レポートの総評は授業内に実施する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>必要に応じてプリントを配布しますが、板書中心となるため、ノートを用意して下さい。なお、1～8回の授業は教科書を使用しますが、9回目以降は適宜資料を配布し、これに従って講義を進めます。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：薬学領域の食品衛生化学〔第2版〕（廣川書店） ※衛生化学Iと同じ</p> <p>参考書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次 他編集（南江堂）</p> <p>指定図書：胃ろうという選択、しない選択 「平穏死」から考える胃ろうの功と罪（セブン&アイ出版）</p> <p>心に残る経腸栄養の患者さんたち（フジメディカル出版）</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>選択科目ですが、国家試験によく出題される範囲ですのでぜひ受講して下さい。疾病者に対する栄養管理は実践問題での出題も増えています。授業内で学んだ内容は、教科書、配布資料で復習する習慣を身につけて下さい。質問は基本的に在室中であれば可能ですので、研究棟3階P308を訪ねて下さい。</p> | | | | | | | |

| 回 | テ ー マ | 授 業 の 内 容 | 予 習 ・ 復 習 | 到達目標番号* |
|----|----------|---------------------------|---------------------------|-------------------------|
| 1 | エネルギー代謝 | 呼吸商、基礎代謝量 | 教科書 p73-80 | 512 |
| 2 | 食事摂取基準 | 食事摂取基準の概要と指標 | 教科書 p80-89 | 513 |
| 3 | 糖質 | 消化・吸収・代謝、食事摂取基準 | 教科書 p3-14 | 508/509/513 |
| 4 | 脂質 | 消化・吸収・代謝、食事摂取基準 | 教科書 p14-23 | 508/509/513 |
| 5 | タンパク質 | 消化・吸収・代謝、食事摂取基準、栄養価 | 教科書 p24-34 | 508/509/513 |
| 6 | ビタミン | 脂溶性ビタミンの過不足と疾病、 食事摂取基準 | 教科書 p37-49 | 508/509/513/514 |
| 7 | | 水溶性ビタミンの過不足と疾病、 食事摂取基準 | 教科書 p45-62 | 508/509/511/ 513/514 |
| 8 | ミネラル | 過不足と疾病、食事摂取基準 | 教科書 p63-64、66-72 | 508/509/513/514 |
| 9 | 傷病者の栄養管理 | 栄養スクリーニング | 配布資料を復 習 | 514 |
| 10 | | 栄養アセスメント | 配布資料を復 習 | 514 |
| 11 | | フィッシャー比、非タンパクカロリー/窒素比 | 配布資料を復 習 | 514/515 |
| 12 | 電解質異常 | 体液の組成、多飲症、脱水症、酸塩基平衡 | 教科書 p64-65 配布資料を復 習 | 15/515 |
| 13 | 栄養補給法 | 種類と選択、経口栄養法、特別用途食品 | 配布資料を復 習 | 515/521 |
| 14 | | 経腸栄養法とその合併症 | 配布資料を復 習 | 515 |
| 15 | | 経静脈栄養法（PPN、TPN）とその合併症 | 配布資料を復 習 | 515 |
| 16 | 定期試験 | | | |

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。